

TIRI NEWS

Eye

Vol.53

株式会社イガラシ

ビーチグッズの老舗が知見を活かし 災害対策用エアーマットを開発

ビーチグッズで国内シェアトップの株式会社イガラシが開発した災害対策用のエアーマット。内蔵されたポンプや寝心地と耐久性を備えた生地など、培ったノウハウを製品に活かしています。

手で押すだけで空気が入る 繰り返し使えるエアーマット

(株)イガラシは、1975年の創業以来、浮き輪などのビーチグッズを手がけてきました。2018年、同社にとって初の災害対策用品である、「ポンプインエアーマット」を開発。東日本大震災の際、支援物資にビーチマットを送ったことが開発のきっかけだったといいます。

「避難所での寝泊まりに役立ったと感謝の言葉をいただきました。ただ一方で、膨らますのに手間がかかる、ビニールがこすれる音が響くといった問題もあり、災害対策専用のエアーマットを開発するに至ったのです」(五十嵐氏)

「ポンプインエアーマット」はウレタン製の空気ポンプが内蔵されており、手でポンプを押すことで簡単にマットを膨らますことができます。排気弁を開ければすぐに空気が抜け、畳んでコンパクトに収納が可能。急を要する場面でも、道具や複雑な手順なしに利用できるように考えられてい

ます。また、触り心地も追求し、生地表面にはビーチグッズでは扱わないポリエステルを採用しました。

「通常、ポリエステル同士は縫い付けて圧着させるため、空気を密封する製品に向きません。そこで裏側にTPU(熱可塑性ポリウレタン)をコーティングした二重構造とし、密閉性と耐久性を確保しています。初めての防災関連製品のため、開発はすべて手探り。生地の開発だけで約1年、全体で約2年半以上要しました」(五十嵐氏)

ビーチグッズの技術を活かし 幅広い用途の製品を生み出したい

使い捨ての簡易エアーマットと違い、「ポンプインエアーマット」は繰り返し使用できることが強み。キャンプや登山を趣味とする個人が購入する例もあり、防災以外の用途も広がっています。展示会に出展した際は、金融機関やゼネコンから想定外の引き合いもありました。

「悪天候が予想されるとき、待機のため店



マットのサイズは182 cm × 50 cm。膨らませると厚さは8 cmになり空気の層が床の冷気を和らげる。

舗や建設現場へ泊まり込むケースがあるそうです。保管に場所をとらず、何度も使用できる点を評価いただきました」(五十嵐氏)

同社の主力製品であるビーチグッズは、夏を中心とした季節商品。最近は「ポンプインエアーマット」に限らず、オールシーズンに向けた商品開発を心がけているといいます。

「ゲリラ豪雨や猛暑など気候が不安定な中で、商機を夏のみには置き、やはり不安な部分があります。ビーチグッズで培った技術やノウハウを転用できないかと、常にアンテナを張っていて、すでにキャラクターグッズや装飾用品といった製品化も行っています。ポンプインエアーマットについては、今後も防災や災害対策関連をはじめ、アウトドア業界などへのアピールを続けていければと考えています」(五十嵐氏)



ポンプ部分を手で押すとマットに空気が入る。内蔵ポンプは本製品のために開発し、特許取得済み。
<http://www.igarashi-ltd.co.jp/about02/view/60>



マットの裏にある排気栓をゆるめれば空気を抜くことができる。畳めばコンパクトに収納可能。重さは670 g。

株式会社イガラシ
代表取締役社長
五十嵐 靖明 氏



1975年の創業以来、浮き輪やビニールプールなどのビーチグッズの製造販売を手がけ、国内シェアトップを誇る。今回、初めて防災用品の開発に至った。